

## 事業の実施内容及び実績に関する報告書（被災地ボランティアセンター支援事業）

### 1 地域の課題

東日本大震災により、東北の3県はいずれも甚大な被害を受け、被災地に設置される災害ボランティアセンターを通常運営する社会福祉協議会においても、人的・物的被害や建物被害など、日常の業務を行うことはもちろん、災害ボランティアセンターの運営に必要な人員、拠点の確保も十分ではない中で、全国からのボランティアの受入れを行っていた。

こうした中、東京都社会福祉協議会（東京ボランティア・市民活動センター）は東京都の支援を受けながら、発災直後から被災地で活動するボランティアを募り、都内区市町村社会福祉協議会の派遣も受けながら、都民ボランティアを派遣するとともに、これらの被災地のセンター運営を支援してきた。

被災地の社会福祉協議会の人的状況に改善が見られない中で、災害ボランティアセンターの運営がさらに長期化すること、発災直後の都民ボランティアを派遣する状況から、後方支援を行うことで災害ボランティアの活動を促進する時期に移行してきたことから、被災地の災害ボランティアセンターを運営するコーディネーターを派遣することで支援を行う取組みが求められていた。

### 2 モデル事業の概要

平成23年7月から平成24年3月末まで、東日本大震災により被災を受けた地域で災害ボランティアセンターの設置、運営を行った社会福祉協議会からの要請に基づき、災害ボランティアセンター等の運営支援のために、継続して長期ボランティア・コーディネーター及び短期ボランティア・コーディネーターの派遣を行った。

### 3 マルチステークホルダーの概要（役割分担等）

#### （1）社会福祉法人 東京都社会福祉協議会（東京ボランティア・市民活動センター）

被災地の災害ボランティアセンターの状況、ニーズ把握を行い、コーディネーターの派遣をとおして必要な支援を行うとともに、短期のコーディネーター派遣先の確保などを行う。

#### （2）東京都生活文化局

東京都社会福祉協議会が行う派遣の取組みを支援し、必要に応じ、現地自治体等との調整を行う。

### 4 実施事業の詳細な内容

別添資料参照

### 5 事業実施上の課題

- （1）長期派遣においては、①遠隔地に派遣したことにより、被災地のその時々状況に応じた派遣スタッフのスキルアップを日常的に行うことが困難であったこと、②いずれ被災地の社会福祉協議会が自力で災害ボランティアセンターの運営や住民の支援を行っていくことを考えると、その固有スタッフのレベルアップにつながる支援が必要であったが、①と同様の課題があった。

(2) 短期派遣においては、災害ボランティアセンターが発災直後の急性期ともいえる時期から回復期に移行してきて、支援を行う団体も固定化し、一定程度は安定した運営を行うセンターが増えてきていた。そうした中で短期のスタッフを派遣することは、派遣先の十分な検討が無いと、逆に被災地のセンターのスタッフの負担になっていた可能性もあり得た。

#### 6 モデルとして他のNPO・行政等に紹介する仕組み

○ 今後の首都圏での災害に備え、コーディネーターを長期、短期で派遣することにより、東京での人材確保、人材育成を自治体が、災害ボランティアセンターを運営することが想定される民間団体を支援していくというモデル事業として、今後も同様の取組みを検討することができる。

#### 7 平成25年度以降の予定

○ 平成23年度ですでに事業終了

# I 長期ボランティア・コーディネーター派遣 実施内容および実績について

- 1 実施概要
- 2 長期ボランティア・コーディネーター派遣実績
- 3 陸前高田市社会福祉協議会  
災害ボランティアセンター活動報告
- 4 気仙沼市社会福祉協議会  
ボランティアセンター活動報告

# 1 実施概要

2011年7月より2012年3月末まで、東日本大震災被災地の社会福祉協議会の要請に基づいて、災害ボランティアセンター等の運営支援のために、継続して長期ボランティア・コーディネーターの派遣を行った。派遣実績および活動報告は、下記のとおり。

- (1) 派遣先: 岩手県陸前高田市社会福祉協議会災害ボランティアセンター  
宮城県気仙沼市社会福祉協議会ボランティアセンター

## 2 長期ボランティア・コーディネーター派遣実績

- (1) 派遣実績総数: のべ 672 人

	気仙沼市社協 VC	陸前高田市災害 VC
7月	24	16
8月	54	31
9月	32	55
10月	32	54
11月	16	53
12月	16	52
1月	16	52
2月	16	68
3月	20	65
小計	226	446
総計	672	

2012年3月末 (のべ人数)

## (2)派遣日程一覧

派遣者名	派遣期間	実働数	派遣場所
伊藤裕貴	8/1～8/17	16	気仙沼市災害ボランティアセンター
伊藤裕貴	9/1～9/17	16	気仙沼市社会福祉協議会ボランティアセンター
伊藤裕貴	10/5～10/21	16	気仙沼市社会福祉協議会ボランティアセンター
根本宣廣	8/16～9/2	17	気仙沼市災害ボランティアセンター
根本宣廣	9/16～10/6	20	気仙沼市社会福祉協議会ボランティアセンター
根本宣廣	10/20～11/17	26	気仙沼市社会福祉協議会ボランティアセンター
根本宣廣	12/5～12/23	16	気仙沼市社会福祉協議会ボランティアセンター
根本宣廣	1/11～1/27	15	気仙沼市社会福祉協議会ボランティアセンター
根本宣廣	2/6～2/24	16	気仙沼市社会福祉協議会ボランティアセンター
根本宣廣	3/7～3/29	20	気仙沼市社会福祉協議会ボランティアセンター
松本崇史	7/16～7/31	16	陸前高田市災害ボランティアセンター
秦野好彦	7/20～8/22	32	気仙沼市災害ボランティアセンター
秦野好彦	9/4～9/21	17	陸前高田市災害ボランティアセンター
秦野好彦	10/2～10/23	18	陸前高田市災害ボランティアセンター
秦野好彦	11/1～11/18	16	陸前高田市災害ボランティアセンター
秦野好彦	12/1～12/17	16	陸前高田市災害ボランティアセンター
秦野好彦	1/6～1/18	15	陸前高田市災害ボランティアセンター
秦野好彦	2/1～2/16	16	陸前高田市災害ボランティアセンター
秦野好彦	3/1～3/18	16	陸前高田市災害ボランティアセンター
根本利彦	8/3～8/31	22	陸前高田市災害ボランティアセンター

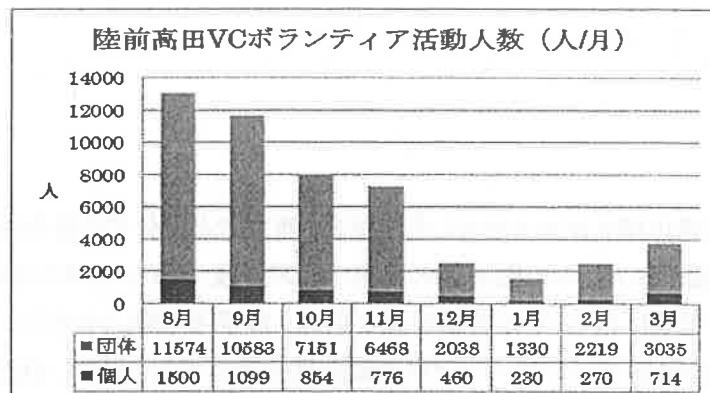
派遣者名	派遣期間	実働数	派遣場所
根本利彦	9/15～10/6	22	陸前高田市災害ボランティアセンター
根本利彦	10/18～11/2	15	陸前高田市災害ボランティアセンター
根本利彦	11/16～12/2	16	陸前高田市災害ボランティアセンター
根本利彦	12/15～12/29	14	陸前高田市災害ボランティアセンター
根本利彦	1/15～2/2	17	陸前高田市災害ボランティアセンター
根本利彦	2012/2/7	1	陸前高田市災害ボランティアセンター
根本利彦	2/16～3/2	16	陸前高田市災害ボランティアセンター
根本利彦	3/16～3/27	12	陸前高田市災害ボランティアセンター
関根祐介	8/23～9/17	25	陸前高田市災害ボランティアセンター
小松ミカ	9/25～10/18	22	陸前高田市災害ボランティアセンター
小松ミカ	11/1～11/30	21	陸前高田市災害ボランティアセンター
小松ミカ	12/3～12/26	16	陸前高田市災害ボランティアセンター
小松ミカ	1/8～1/31	20	陸前高田市災害ボランティアセンター
小松ミカ	2/3～2/29	20	陸前高田市災害ボランティアセンター
小松ミカ	3/3～3/26	19	陸前高田市災害ボランティアセンター
桑久保博夫	2/13～3/2	18	陸前高田市災害ボランティアセンター
桑久保博夫	3/4～3/27	16	陸前高田市災害ボランティアセンター

### 3 陸前高田市社会福祉協議会

## 災害ボランティアセンターにおける活動報告

#### 【概要】

陸前高田市災害ボランティアセンター(以下、陸高災害 VC とする)へは、6 名のべ 446 人/日を派遣した。



#### 【陸前高田 VC について】

陸高災害 VC は「つないで陸高 なじよにかすっぺ」の精神の基、「人と人をつなげて陸前高田をなんとかする」という目標を掲げ、日々活動を行ってきた。陸前高田市は、他の被災地と比べても甚大な被害を受けており、2012年3月末現在も、継続して被災者からのニーズの受付と新規ニーズの掘り起し、県内外からのボランティアの受け入れを積極的に行っている。

陸高災害 VC 職員やスタッフは、瓦礫撤去やドロだし等のボランティアの活動についても、ただ瓦礫を撤去し街を片付けるという結果だけでなく、県内外から来たボランティアが瓦礫撤去等の活動をしている姿を被災住民が目にする事によって、「一人ではない」、「見捨てられていない」、「自分も頑張ろう」という気持ちを持ってもらいたいという想いを持ち、ボランティアによる活動の意義や価値を常に確認し発信しながら活動している。

そうした中で、陸前高田市を訪れるボランティアを、単なるボランティアではなく、自分たちの災害VCの仲間一人、「現場活動班」と捉え、県内外からの災害ボランティアの活動の受け入れを積極的に行っている。

#### 【派遣したボランティア・コーディネーターの主な役割】

災害ボランティアの受け入れに関連した業務として、マッチング・ニーズ班、総務・オリエンテーション班などを担当し、被災者からのボランティアニーズの聞きとり・発掘とボランティアの受け入れ・マッチング、ボランティアへのオリエンテーションの他、陸前高田市内で活動する支援団体との情報共有の場となるネットワーク会議の立ち上げから、運営のサポートを行った。

また、本事業による短期ボランティア・コーディネーター派遣の現地担当者として、受け入れ調整や業務指示等も行い、長期及び短期の派遣者共に、陸高災害 VC の運営やボランティアの受け入れに貢献した。

## 【経過】

市街地全体が壊滅的な被害を受ける陸前高田市では、TV等の報道の影響もあり、発災後半年が経った夏場以降も途切れることなく、9月には、ボランティア参加者が最大1200名を越えた日があるなど、多くのボランティアが支援に訪れ、本事業によって派遣した災害ボランティアコーディネーターだけでなく、災害VCの職員や外部支援団体のスタッフ、ボランティアスタッフらが、総出で連日対応した。

また、11月頃より幾らかの外部支援団体が撤退し災害VCの運営スタッフが圧倒的に不足していく中、本事業によって派遣した長期ボランティア・コーディネーターは、より一層、陸高災害VCの運営に欠かせない人員として、多くの役割を担うに至った。

## 【ニーズの移り変わり】

陸高災害VCでは、夏場以降も泥かきやガレキの撤去、草刈など野外での体を使った災害ニーズが多く寄せられた。冬場以降は、細かなガレキの撤去等の災害ニーズが残ったが、例年になく悪天候の中で、地面が凍って作業が出来ない、現場に行くまでの道路状況が危険、被災者も寒い中ボランティアに作業を依頼することに申し訳なく感じる等の状況で、ボランティアの活動を見合わせざるを得ない状況が多々生じ、冬場のボランティアの活動は停滞状態になった。派遣スタッフも、凍結問題や強風から施設を守るための整備活動等に追われた。冬場の、未消化のニーズは春先以降に順次ボランティア活動が行われるようになった。

また、冬場以降は、徐々に生活支援のニーズも増えてきたが、それらの対応は、主に陸前高田市の社会福祉協議会が担っており、陸高災害VCとしては、仮設住宅から被災者向けのサロン活動を実施する地域の集会所への移動補助などのサポート等を行った。

## 【現地の抱える課題】

現地での課題として、代表的なものを以下に、4つあげる。

- (1).複雑化・多様化するニーズへの対応
- (2).新たなボランティアニーズの発掘と、被災住民への陸高災害VCの周知不足
- (3).ボランティアの減少
- (4).VCスタッフ不足

### (1).複雑化・多様化するニーズへの対応

専門技術を持つ技能者の確保(例.重機を使った作業、介護者など)といった問題。また、仮設住宅から上がる依頼(例.棚づくり等)に対し、ボランティアが全て行ってしまうと、被災住民の自主性を損ねてしまうのではないかと支援過多への心配の声が、ボランティアセンター内外から上がるなど、支援と自立のジレンマが常に災害VCの運営について回るようになった。こうした課題への対応としては、陸高災害VC内だけでなく、本部の社会福祉協議会との連携、自治体との連携、他団体との連携が必要とされ、今後も検討課題である。



## (2) 新たなボランティアニーズの発掘と、被災住民への陸高災害 VC の再周知

被災者の中には、ボランティアの助けを必要としているが、陸前高田 VC の存在を知らない・頼み方を知らない、頼める余裕がないなどの理由で要請が上がらない状況がみられニーズ等に対し、どのように呼びかけを行うかが課題であった。これに対し、陸高災害 VC としては、広報チラシを作成し、ボランティアに配布してもらうなどの対応をとった。本事業でも、2 月より 1 名を追加派遣し、主に社会福祉協議会の生活支援相談員のサポートとして従事させ、地域への巡回に同行して、陸高災害 VC に繋ぐことが出来るニーズがないか、という視点を持って活動に当たった。

## (3) ボランティアの減少

冬場の 11 月以降、天候不良による道路状況等安全上の問題が大きく影響しボランティアの参加者数が激減した。これに対し、陸高災害 VC は広報ツール(ブログや Twitter)の活用や、過去の参加者へお礼状を作成して参加を呼び掛けた。また、東京都社会福祉協議会としても、東京ボランティア・市民活動センターの HP 上で、陸高災害 VC の活動情報提供を提供し、災害ボランティアの相談対応、災害ボランティア活動の注意事項を掲載したハンドブックやリーフレットを作成してボランティア参加の継続的な呼びかけを行った。

なお、3 月に入り、天候の回復と気温の上昇とともに、徐々にボランティアの数も増加した。

## (4) VC スタッフ不足

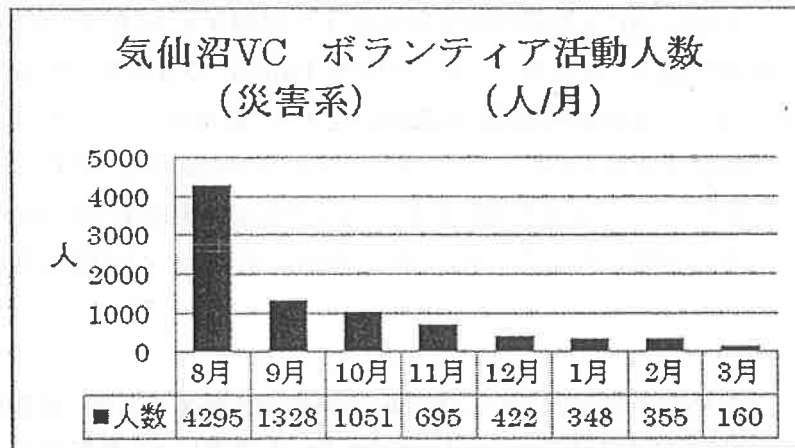
発災以降活動してきた外部支援団体のいくつかは、その役割を終えて徐々に撤退していき、夏場以降は、陸高災害 VC のスタッフが不足する状況になった。そのため、本事業による長期ボランティア・コーディネーター派遣だけでなく、短期ボランティア・コーディネーターを派遣し、継続的な支援を行った。

上述の経過及び活動内容等に対して、本事業により派遣された長期・短期のボランティア・コーディネーターは、被災された人々に寄り添い、陸高災害 VC の運営をサポートするという認識の下に支援活動を行い、陸前高田市災害ボランティアセンターの運営に貢献した。

## 4 気仙沼市社会福祉協議会 ボランティアセンター 活動報告

### 【概要】

気仙沼市社会福祉協議会ボランティアセンター(以下気仙沼 VC とする。)へは、3 名のべ 226 人/日を派遣した。



### 【派遣コーディネーターの主な役割】

- ・気仙沼市大島でのボランティアコーディネート  
(7月～11月 マッチング・ニーズ発掘、災害ボランティア受けつけ業務など全般)
- ・気仙沼 VC でのボランティアコーディネート(12月～)
- ・生活相談員との大島の仮設への訪問(12月～週1回)

### 【経過】

発災直後から多くの外部支援団体が災害 VC の支援に入ったが、夏場以降、災害ニーズが落ち着いてきたこと、今後は、地元中心に運営していくという気仙沼社会福祉協議会の方針が示され、8月中旬には災害ボランティアセンターから、ボランティアセンターへ名称を変更したこともあり、外部支援団体のいくつかはその役目を終え、気仙沼を離れた。

ボランティアセンターが、瓦礫撤去等の災害ニーズに対応するボランティアの活動を引き継ぐと共に、新たに地域支援班が立ち上がり、生活支援相談員を中心にした被災者の生活支援のサポートを開始した。

本事業によって派遣した長期ボランティア・コーディネーターは、派遣依頼、気仙沼市大島を担当してボランティアコーディネート業務全般を行ってきたが、11月に入り大島でのボランティアの活動が落ち着いたこともあり、気仙沼 VC からの大島へのボランティア派遣終了した。

12月以降は、気仙沼市内でのボランティアコーディネートを担当すると同時に、大島での活動を通して被災住民と出来たつながりを、生活支援相談員活動に繋いで欲しいとの要請を受け、気仙沼 VC の生活相談員と一緒に週に1回、大島の仮設住宅を訪問し、生活相談員への顔繋ぎとボランティアニーズの掘り起しを行った。

気仙沼市内での、災害関連ニーズが落ち着いたことと、体制の再構築のため、2012年3月中旬以降、災害ボランティアの受け入れを一時中止することとなり、本事業による支援も終了した。

### 【ニーズの移り変わり】

大島では、個人宅での作業(ガレキの撤去、畑の整地、室内の清掃、引越し作業など)が中心であった。

### 【課題】

気仙沼 VC の課題として挙げられていたものは下記のとおりである。

- (1) ボランティアの減少
- (2) 地域イベントの実施
- (3) 地元の人的支援が不十分

#### (1) ボランティアの減少

8月以降ボランティアセンターでのボランティア人数に上限を設定したため、県外ボランティアの間で気仙沼 VC が閉鎖したという噂が出回るなどの要因で、ボランティア数が各日の受け入れ可能定員に満たない日が続いていた。このため、気仙沼 VC としては、一度受け入れを終了した団体受付を再開するなどの対応をとった。

#### (2) 地域イベントの実施

気仙沼 VC として、お茶会やサロンの運営だけでは幅広い住民への生活支援は不足していると考え、今後も地域支援班へのボランティア活動等は、地元を中心に募集等を検討していくこととした。

#### (3) 地元のボランティア等の呼びかけ

3月に入り、ボランティアの受け入れを一時見合わせたものの、今後も単発でニーズが挙がってくることが予測されることと、地域イベントを支援していく人材の確保のため、気仙沼 VC としては地元のボランティアの参加を期待し、HP 上でも地元のボランティアの参加を呼び掛けている。

上述の経過及び活動内容等に対して、派遣された長期ボランティア・コーディネーターは、気仙沼市社会福祉協議会職員の判断に従いながら、気仙沼 VC の運営のサポート、ボランティアの受け入れ調整等を行った。

## Ⅱ 短期ボランティア・コーディネーター派遣 実施内容および実績について

- 1 実施概要
- 2 短期ボランティア・コーディネーター派遣実績
- 3 短期ボランティア・コーディネーター派遣内訳一覧表

# 1 実施概要

2011年7月16日より2012年3月末まで、東日本大震災被災地の災害ボランティアセンター及び復興支援センター等の運営補助を行うため、短期ボランティア・コーディネーター(7日間～最大31日間)の派遣を行った。

## 2 短期ボランティア・コーディネーター派遣実績

- (1) 派遣人数:112人
- (2) 派遣日数述べ:1,480人日
- (3) 派遣先:7箇所

	派遣先	人数	述べ人日
1	東京災害ボランティアネットワーク 登米仮設住宅支援プログラム	50	580
2	陸前高田市災害ボランティアセンター	35	536
3	ねおす釜石栗橋ボランティアセンター	11	116
4	遠野まごころネット	8	176
5	南三陸町災害ボランティアセンター	2	30
6	多賀城市社協復興支えあいセンター	3	27
7	カリタスジャパン仙台教区釜石ベース	3	15
	全体合計	112人	1,480人日

Year	Value	Unit
1990	100	1000
1991	105	1000
1992	110	1000
1993	115	1000
1994	120	1000
1995	125	1000
1996	130	1000
1997	135	1000
1998	140	1000
1999	145	1000
2000	150	1000
2001	155	1000
2002	160	1000
2003	165	1000
2004	170	1000
2005	175	1000
2006	180	1000
2007	185	1000
2008	190	1000
2009	195	1000
2010	200	1000
2011	205	1000
2012	210	1000
2013	215	1000
2014	220	1000
2015	225	1000
2016	230	1000
2017	235	1000
2018	240	1000
2019	245	1000
2020	250	1000